

つなげよう脱原発の輪 上越の会の公開質問状への回答

2012 (H24) 年 11 月 17 日 / 石平春彦

【設問 1】 柏崎刈羽原発の再稼働に賛成ですか？それとも反対ですか？（具体的な理由についてもご記入ください。）

【回答 1】 柏崎刈羽原発の再稼働に反対です。速やかに廃止を決定すべきです。

柏崎刈羽原発に限らず地震（及び津波）の多発する日本において「原発震災」という過酷事故のリスクは極めて高いものです。ひとたび過酷事故が起これば人類や地球の生態系にとって取り返しのつかない事態に陥る放射能特性を持つこと、また、解決策の見いだせない放射性廃棄物の処分問題やトータルとしての原子力発電のコスト高等、原発は無限とも言えるリスクを抱えています。そのことは、東日本大震災と福島第一原発事故を経験して、改めて明らかになりました。

中でも柏崎刈羽原発は、世界最大の出力を持つ原発として、リスク分散上の問題をはじめ、専門家によって長年指摘されてきた、地殻活動度の高い地域（日本海東縁変動帯の中でも地殻活動度が高い羽越－信越褶曲帯の真中にあること）であること、周辺の活断層の存在とともに立地が軟弱な地盤であること、中越沖地震等の影響に対する原発施設の健全性が実証的に確認できないことなど、今後の「原発震災」による壊滅的影響の可能性が非常に高い存在であると言えます。

【設問 2】 柏崎刈羽原発は今後廃炉にするべきと考えますか？するべきでないと考えますか？（具体的な理由についてもご記入ください。また、「廃炉にするべき」と答えた方はその時期についてもご記入ください。）

【回答 2】 柏崎刈羽原発は速やかに廃炉にむけた工程表を作り作業に入るべきです。「速やかに作業に入る」ことが重要であり、「完全な廃炉」は専門的な見地からの廃炉計画や工程実施に委ねざるを得ません。

【設問 3】 大飯原発の再稼働についてどのようにお考えですか？

【回答 3】 大飯原発の再稼働決定は誤っています。直ちに停止し、廃炉にむけて作業を開始すべきです。

原発一般の危険性については設問 1 の回答で述べた通りですが、安全性（福島第一原発事故の徹底した検証と大飯原発の立地や施設の安全性の実証）が確認されない段階で再稼働させた政治的判断は、合理的・科学的根拠のない無謀な決定だったと思います。

現状は、専門家によって原発直下に活断層があることがほぼ確認されましたし、仮に一部に異論があったとしても「疑わしきは慎重に（＝動かさない）」とすることは社会常識の範囲と思います。

【設問4】 上越市民に対する柏崎刈羽原発の危険性についてどのように認識されていますか？

【回答4】 柏崎刈羽原発は、設問1の回答で述べた観点から、上越市民に限らず人々の生命、健康、財産、生活、地域コミュニティ、自治体、さらには国や地球環境に関わる根源的に危険なものです。

ですから、原発が存在している限り（停止、廃炉過程、稼働に関わらず）、最大限の原子力安全対策と災害対策をしっかりと打ち立てなくてはなりません。

そのために私は、10数年前、1999年（平成11年）12月8日の一般質問で、上越市議会において初めて原発問題を総合的・根源的に取り上げ、「原発の安全神話」の非科学性を強く批判しながら日本における最悪（チェルノブイリ級）の原発事故の可能性を指摘して、上越市における原子力災害対策の緊急性・重要性について提言しました。

国の防災指針では対策の必要な地域は、原発から半径10kmの範囲の自治体としていましたが、上越市は当時、柏崎刈羽原発から35km～60kmの範囲でした。ただし水道水源地の柿崎川ダムが22km地点にありました。いずれにしても「対策不要」という意識が国から市まで行政の中では根強いものでした。そのような中で、その後も繰り返し粘り強く問題提起してきた結果、2008年（平成20年）に、不十分ながらも原発立地自治体を除いて新潟県内で唯一、「地域防災計画」の中に原子力災害対策を位置付けさせることができました。

また、東日本大震災の原発震災直後には、市議会内で直ちに行動し、私の発意と起草による意見書（「原子力発電所の段階的縮小と再生可能エネルギーへの転換・促進を求める意見書」）が昨年6月議会で可決され、上越市議会として国会や政府に強く要望することができました。会派間の調整で一部修正したため、私自身としては不十分に感じる部分もありますが、市議会として意思表示できたことは大きな前進だったと思います。

現在は、地域防災計画の見直し（原子力災害対策編の策定）に向けて、行政の検討作業に節々でチェックと提言を加えながら、意識を研ぎ澄まして取り組んでいます。

一方では、エネルギー政策の抜本的な転換、すなわち省エネルギーや再生可能エネルギーの飛躍的な推進を可能とする政治・経済・社会の枠組みと環境整備が喫緊に必要なことも自覚し、市議会議員の立場で最大限の取組を進めたいと思いますし、その一部は現に行っています。

まだまだ不十分な点もあると思いますが、市議会議員として、「（柏崎刈羽）原発の危

「危険性」の認識に基づいて、一時の対外的なパフォーマンスではなく、遠い以前から市民の安全安心のために最大限努力して形にしてきた姿も、市民の皆さんに理解してほしいと思います。これらの取組（一般質問や意見書や私の取組など）は、インターネットでも見ることができますので、参考にさせていただきたいと思います。